

報道関係者 各位

2010年11月29日  
株式会社 情報流通ビジネス研究所

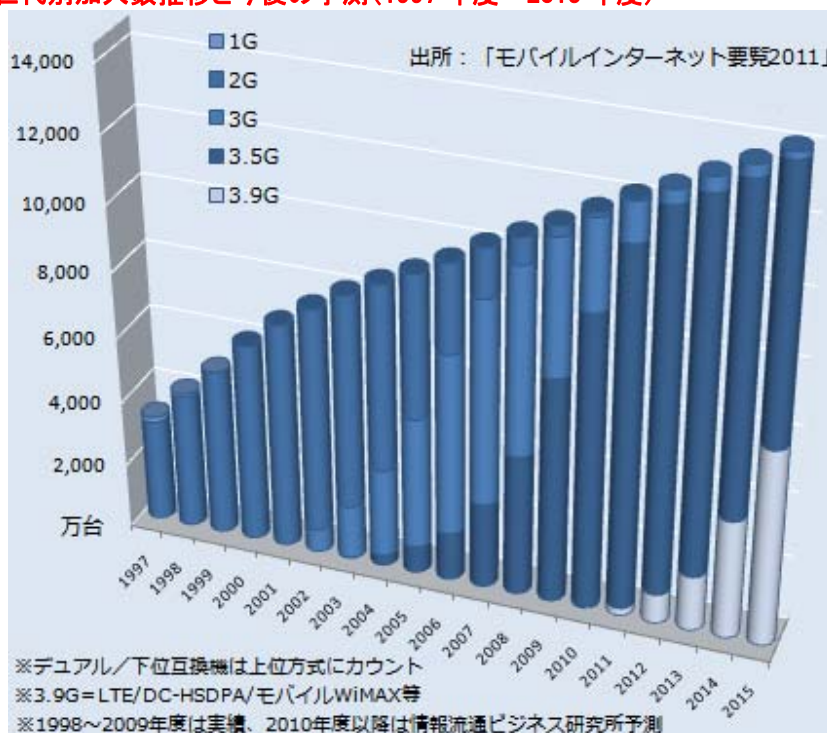
**3.9世代携帯の加入数、2015年度に4割超えへ  
年間出荷台数は9割まで市場が急拡大  
—— 情報流通ビジネス研究所が市場規模予測 ——**

ICT市場の調査会社、情報流通ビジネス研究所(略称・ISBI、本社:神奈川県大和市、TEL 046-271-2323)は、このほど発行した国内外のモバイル市場動向に関する調査報告書「モバイルインターネット要覧 2011」のなかで、2015年度までの移動通信市場予測結果を発表しました。

それによれば、

- ①LTE や DC-HSDPA、モバイル WiMAX など、3.9G 国内加入数は 2015 年度までに全加入の 4 割を超える
  - ②2015 年度における 3.9G 端末の年間出荷台数は、全出荷の約 9 割を占める
  - ③国内携帯電話端末の年間出荷に占めるスマートフォンの割合は、2015 年度・約 63%まで急拡大する
- といった、各種の市場見通しが示されています。

**図1 携帯電話の世代別加入数推移と今後の予測(1997年度～2015年度)**



出典: 情報流通ビジネス研究所「モバイルインターネット要覧 2011」より

## 1. 国内移動通信市場の見通し

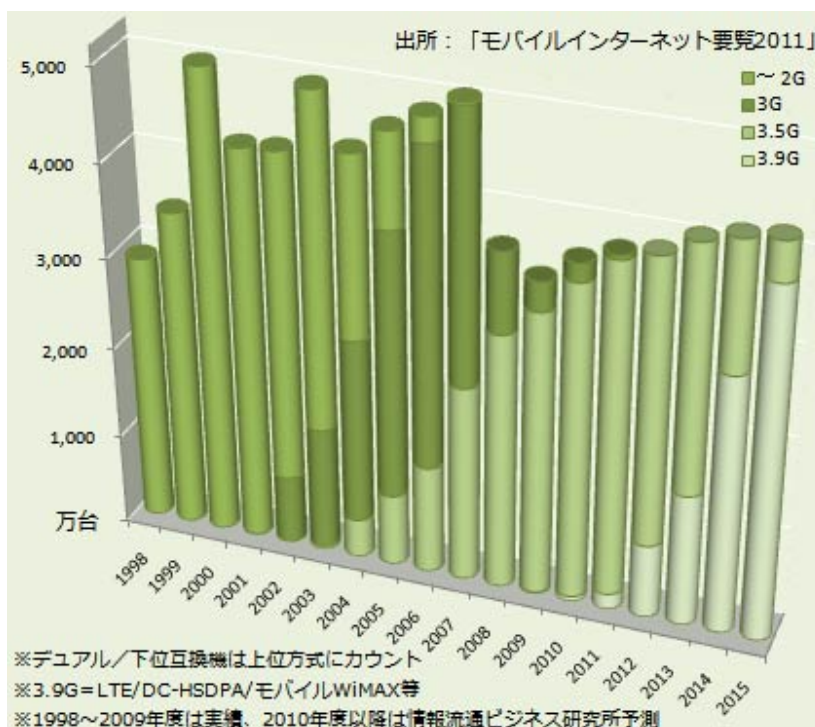
2006 年度に 1 億加入を超えて以来、すでに飽和状態にある国内の移動通信サービスの加入者数ですが、PHS の減少といった状況を抱えながらも、料金競争のさらなる激化やスマートフォン需要の急激な立ち上がり、BWA サービスの本格化、タブレット端末や電子ブックリーダーなどの非音声端末、法人需要の増加、といったさまざまな要因に支えられ、今後とも年 3~4%の伸びで拡大していくと予想されます。

その結果、2012 年度には総計 1 億 3000 万加入を突破し、人口普及率ベースでも欧州各国の状況と同様、100%を超えるでしょう。2014 年度には 1 億 4000 万の大台に乗る見通しです。レポートでは、2015 年度は携帯電話/BWA/PHS など国内移動通信サービス総計で、加入数およそ 1 億 4800 万、普及率にして約 116%にまで達すると予測しています。

特に、携帯電話およびモバイル WiMAX/XGP といった BWA の合計値についてみると、2010 年度は約 1 億 1760 万(前年度比 4.7%増)の加入が見込まれます。これが 2015 年度には 1 億 4000 万加入を超え、普及率は 111.3%にのぼるという、一大市場が形成されていく見通しです。

## 2. 世代別に見た市場の見通し

図 2 携帯電話の世代別端末出荷台数予測(1998 年度~2015 年度)



出典: 情報流通ビジネス研究所「モバイルインターネット要覧 2011」より

2009年度は、HSPAやEV-DOといった3.5Gの利用者数が加入者市場の過半を超えました。海外と照らして、日本の3G化率の突出ぶりがよく指摘されるが、もはやその中身は3.5Gということになります。2010年度はさらに3.5G化率が上昇、全加入者の約75%、人口普及率換算で約69.8%に達するでしょう。

しかしこの3.5Gの加入増も、2011年度をピークとして2012年度より急激に減少すると弊社はみています。すなわち、次の世代である3.9Gが同時期から早くも立ち上っていく見通しです。すでにサービス開始済みのモバイルWiMAXに加え、2010年末よりLTEやDC-HSDPAなど、携帯電話系の高速度サービスが2012年度から急拡大すると予測されます。その背景として、3.9Gのエリア拡大が進むとともに、同時期に音声をサポートするハンドセット型端末が一般的になる点が挙げられます。

さらには、①スマートフォンの急速な普及によって、データ・トラフィックが爆発的に急増し、通信事業者はこれに耐え得る高速・大容量ネットワーク構築を急ぐ必要に迫られること、②各社の3.9Gサービスが出揃うことによる競争激化——も大きな要因です。こうしたことから2012年度以降、3.9Gは急速に加入者を増やし、2015年度には移動通信サービス全加入の40%を超えるものと予測されます。この動きと連動する形で、3.9G端末の年間出荷は、全体の約90%を占めるでしょう。

### 3. 急拡大する国内スマートフォン需要

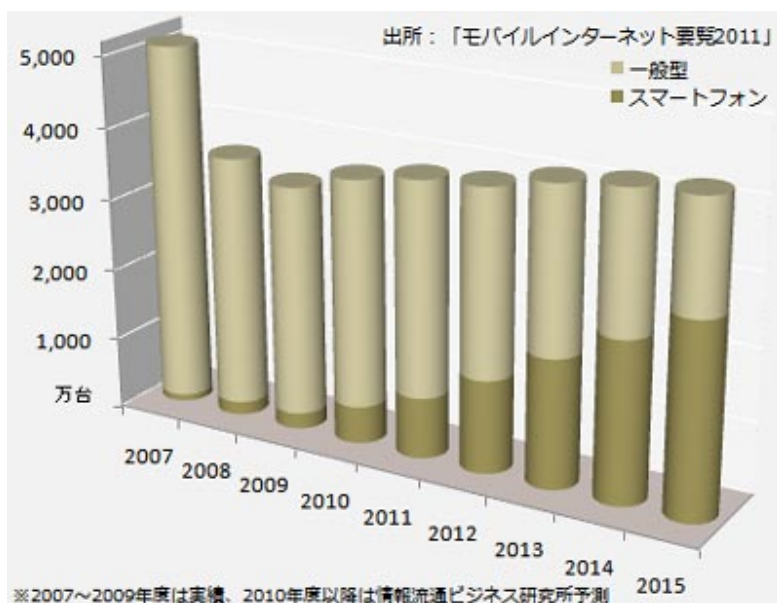
2007年度に過去最高記録を達成した国内の携帯電話端末市場は、市場飽和感や世界同時不況、新販売方式への転換、買い替え需要の長期化、そして前年度の好調に対する反動——といったさまざまな要因によって、2008～2009年度実績は急激に落ち込みました。しかし2010年度は、好転の兆しが見られるようになってきています。これを支えているのが、スマートフォン需要の高まりです。

今まで国内では、AppleのiPhoneがスマートフォン需要を喚起してきた格好でしたが、2010年はその最新モデル「iPhone4」の登場に加え、下期になってから各キャリアともAndroid OS搭載スマートフォンを、国産／海外製のいかに関わらず続々と投入、市場から確かな反応を得るようになってきました。

革新的なUIでアーリーアダプタを魅了してきたiPhoneは、女性ユーザー比率を高めるなど、確実に需要の裾野を広げています。また、変わり映えしなくなってきた従来の携帯電話端末が、買い替えサイクルの長期化の一因になっていたのに対し、iPhoneを始めとするスマートフォンが買い替え意欲を喚起しています。こうした傾向は、今後さらに加速していくものと考えられ、2010年度後半より急速に需要が伸びていくでしょう。

スマートフォンは、一般の携帯電話に比べて大容量のデータ通信や制御データを頻繁にやりとりするため、通信トラフィックの混雑を招く原因となります。その意味でスマートフォンは、通信事業者にとって厄介な存在でもありますが、これから各社が開始する3.9Gは、そうした問題を解消する根本的な解決策でもあるのです。つまり3.9Gとスマートフォン需要の高まりは、きつてもきれない関係にあるといえます。3.9Gネットワーク整備とともにスマートフォン市場もさらに拡大していくでしょう。2015年度には、年間出荷数の6割を超える端末がスマートフォンで占められているものとみられます。

図 3 国内スマートフォン端末の出荷数推移と予測(2007～2015 年度)



出典: 情報流通ビジネス研究所「モバイルインターネット要覧 2011」より

スマートフォン需要中心の市場構造へと徐々に移行することにより、ASP(端末単価)も上昇する見通しです。ただし中長期的には、スマートフォン向けに開発された OS がローエンドや年配層向け携帯などにも採用され、単価も下落傾向を辿っていく公算も高いとみられます。

2015 年度頃におけるスマートフォンとは、好みや用途に応じてユーザー自身がカスタマイズする形のほか、同一筐体や OS でも、ユーザーのスキルや年齢層に応じて、購入当初はアプリや機能が封じられた形でラインアップされる形態が考えられます。それ以外では、ハード的に CPU やメモリといったスペック上の差異があるかどうかです。その頃にいたっては、スマートフォンとフィーチャーフォン、ミッドレンジ/ローエンドという、現在の区分や定義の仕方も、大きく様変わりしているでしょう。

——以上の内容は「モバイルインターネット要覧 2011」のなかで、詳しく述べられています。「モバイルインターネット要覧」は、国内外のモバイル市場動向をインフラや端末、サービス/コンテンツ、技術、政策面から定期的に分析している調査レポートで、同社が 2001 年から発行しているものです。

「モバイルインターネット要覧 2011」では、1G から 3.9G にいたるまでの各方式の加入数/端末出荷数予測をはじめ、LTE-FDD やモバイル WiMAX、TD-LTE、スマートフォンの世界市場トレンド、フェムトセルの国内外動向、モバイル SNS やソーシャルゲーム市場といった最新キーワード分析を始め、国内外の通信事業者の戦略やインフラおよび端末ベンダー各社の動向など、さまざまな角度から移動体通信/モバイル産業の現状と今後を分析・展望しています。

これらの詳細・内容構成については、<http://www.isbi.co.jp/report/mi2011/> をご覧ください。

4. 「モバイルインターネット要覧 2011」の主な内容構成(全 476 ページ・図表 310 点)

第1章 モバイルビジネス・ ホットキーワード分析	I. LTE の国際市場トレンドと 海外オペレータの次世代戦略	1. データ端末の普及・拡大と LTE 構築の必然性 2. LTE のシステム概要と標準化 3. LTE 向け周波数の世界的トレンド 4. LTE 導入に向けた欧米オペレータの動向
	II. スマートフォン急拡大で激変する 携帯電話グローバル競争	1. 世界のスマートフォン市場を巡る動きと市場展望 2. スマートフォン OS のグローバル市場分析と今後の予測
	III. 加熱するモバイル SNS/ ソーシャルビジネスの市場分析	1. 日本のモバイル SNS の急成長 2. 世界での SNS ビジネスの勃興とモバイル化——Facebook 3. 世界での SNS ビジネスの勃興とモバイル化——iPhone 4. 「モバイル・ソーシャル」アプリビジネスの特質と参入戦略 5. 「モバイル・ソーシャル」プラットフォームの今後 6. モバイル・ソーシャルアプリビジネスの市場規模予測
	IV. 頭角を現し始めた TD-LTE の 潜在パワーとその動向	1. TD-LTE の概要 2. TD-LTE 推進で国際主導権を争う中国勢の戦略分析 3. 世界各地に飛び火する TD-LTE の動向
	V. 中国モバイル市場のダイナミズムと最新動向	1. 中国携帯電話市場の特質 2. 中国におけるモバイルビジネスの最新トレンド
	VI. フェムトセルとホーム ICT ビジネスの展望	1. フェムトセルの概要 2. フェムトセルの標準化動向 3. フェムトセルをめぐる海外通信事業者の動き 4. フェムトセルをめぐる国内通信事業者の動静 5. フェムト専用ベンダーの動き 6. 大手総合ベンダーの動向と戦略展望 7. フェムトセルの市場予測と今後の展開 8. フェムトセルによる国際展開とプラットフォーム化
	VII. 海外市場で顕在化する モバイル WiMAX の“変節”	1. モバイル WiMAX の概要 2. モバイル WiMAX の周波数割り当て状況 3. 先行市場にみるモバイル WiMAX 事業の行方
第2章 3.9G 時代に突入する 国内市場の動向と今後の展望	I. 国内移動通信サービス加入市場の展望	1. 携帯電話/BWA/PHS の市場概況と今後の予測 2. 国内移動通信サービスの無線アクセス方式別市場の展望
	II. 国内移動通信キャリアの事業動向	1. 3.9G 時代に向けた事業者間競争の展望 2. 次世代ネットワーク時代に向けた国内キャリアの動向
	III. 移動通信キャリア各社の動向と戦略分析	1. 携帯電話事業者 3 社における 2010 年度上期業績 2. NTT ドコモの事業動向と次世代ネットワーク戦略 3. KDDI の事業動向と次世代ネットワーク戦略 4. ソフトバンクの事業動向と次世代ネットワーク戦略 5. イー・モバイルの事業動向と次世代ネットワーク戦略
	IV. 国内移動端末の 市場規模推移と今後の予測	1. 市場概況および市場規模予測(1998 年～2015 年度) 2. 携帯電話/BWA 端末の市場推移と予測(1998 年～2015 年度)
第3章 携帯電話世界市場の動向分析	I. 携帯電話加入者の 世界市場規模と今後の予測	1. 携帯電話サービス加入者数の推移と予測 2. 世界における地域別携帯電話の加入者数推移と予測
	II. 海外市場と LTE 時代に向けた オペレータの動向	1. 米国における携帯電話市場の動向 2. 全米 2 大オペレータの事業動向とスマートフォンを巡る動き 3. LTE 導入に向けた北米オペレータの動向 4. 欧州主要国における市場動向 5. 中国携帯電話市場の現状と事業者の動向
	III. 携帯電話端末の世界市場規模推移と予測	1. 世界の携帯電話端末マーケット分析と今後の予測 2. アクセス方式別にみた世界の携帯電話端末市場展望
第4章 次世代モバイル市場に向けた グローバル企業の動向と戦略	I. インフラ系グローバル企業の動き	1. エリクソン 2. ノキア・シーメンス・ネットワークス 3. ファーウェイ 4. 中興 5. アルカテル・ルーセント 6. モトローラ
	II. 端末系グローバル企業の動き	1. ノキア 2. サムスン 3. ソニー・エリクソン 4. アップル
第5章 モバイル市場ピックアップ	1. インフラ/プラットフォーム/サービス 2. ハードウェア 3. ソフトウェア 4. コンテンツ/アプリケーション 5. 新技術/デバイス/標準化 6. 企業動向/業績 7. ICT 政策 8. 市場/ユーザー動向	
第6章 資料/統計編		

※内容詳細(目次・図表一覧)は、弊社サイト( <http://www.isbi.co.jp/report/mi2011/> )をご覧ください。

5. 調査レポート「モバイルインターネット要覧 2011」について



- ・発行日 2010年11月25日(初版第1刷)
- ・発行元 株式会社 情報流通ビジネス研究所
- ・調査 株式会社 情報流通ビジネス研究所
- ・体裁 A4判カラー・全475ページ・図表310点
- ・定価 95,000円(税込99,750円)
- ・URL <http://www.isbi.co.jp/report/mi2011/>
- ・TEL 046-271-2323(代)
- ・FAX 046-271-2324

6. 会社概要

- ・社名 株式会社 情報流通ビジネス研究所 (Info-Sharing Business Institute, Ltd.)
- ・設立 2000年4月
- ・代表者 飯塚 周一
- ・事業内容 情報通信(ICT)分野に関する調査研究/政策立案/コンサルティング等
- ・所在地 神奈川県大和市南林間2-18-23 長尾会計1F 〒242-0006
- ・URL <http://www.isbi.co.jp/>
- ・TEL 046-271-2323(代)
- ・FAX 046-271-2324

7. 本件についてのお問合せ先

- 株式会社 情報流通ビジネス研究所 企画調査グループ
- ・電話で 046-271-2323(※電話対応時間帯・10:30~17:30)
- ・FAXで 046-271-2324(24時間対応)
- ・メールで [isbi-customer\\_at\\_isbi.co.jp](mailto:isbi-customer_at_isbi.co.jp)(左記の\_at\_を@に変えてお送り下さい・24時間対応)
- ・HPから 弊社Webトップページ右上の「お問合せ」フォームをご利用下さい(24時間対応)

以上